

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調査

(1) 取組名	つるおか森のキャンパス元気プロジェクト		
(2) 実施団体名	つるおか森のキャンパス推進協議会	(3) 対象地域	山形県鶴岡市(朝日地区、温海地区及び中心市街地など)
(4) 代表団体名	鶴岡市	(5) 推薦団体名	

(6)実施した取組の内容	取組①②	森の産直カー社会実験「あさひ産直カー実験」「あつみ産直カー実験」	
	実施主体	あさひ村直売施設管理運営組合、(株)クアポリス温海「しゃりん」、んめっちゃ市	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<ul style="list-style-type: none"> ■実施内容: 森の産直カー運行実験(軽トラックを使った農林産物の集荷・販売活動) ■実施時期:10月上旬～2月(会員募集9月) ■実施場所:(集荷)朝日地域及び温海地域 (販売)鶴岡市中心市街地、山形市・仙台市などイベント会場。 ■取組の目的: これまで出荷を諦めざるを得なかった中山間地域高齢者農家等の農林産物出荷システム改善による所得向上と生産拡大を図る。 更には、市街地での販売活動を通じて、地域内交流を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■実施内容、時期: 森の産直カー運行実験の実施。[10月上旬～3月中旬] (会員募集9月から適宜追加) ■運行状況:10～12月は週3日、1～3月は週2日、週末は各種イベントへ参加。 ■実施場所:(集荷)朝日地域及び温海地域 (販売)中心市街地の商店街など20箇所、各種イベント14箇所(小真木原運動公園、山形市、東京江戸川区等) ■取組の結果: ・出荷経験のない生産農家50名を含む全会員数190名が参加し、新たに販売の道が開かれた。 ・少量でも出荷ができ、農家の評判は予想以上。所得向上、加工生産拡大への意欲向上、生き甲斐の創出に寄与。 ・市街地側では、高齢者世帯や主婦を中心に高い評価を得ており、産直カーを応援する町内会も現れるなど、中山間地域と市街地の新たな交流も生まれてきた。 ・産直カーの食材を使った「森のめぐみ給食」を市内保育園へ提供。子供と生産者の交流のきっかけ作りになった。
取組③	森の産直カー社会実験「山王商店街産直ネットワーク事業」		
実施主体	山王商店街振興組合		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> ■実施内容: 商店街の空店舗を活用した産直「山王の食鮮市」の実験店舗開設、商店街イベントでの中山間地域の農林産物販売 ■実施時期:9～2月末 場所:山王商店街(鶴岡市山王町地内) ■取組の目的: 産直カーと中心市街地が連携した継続的な流通システムの構築と地域内交流による賑わいの創出を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■実施内容: 商店街空店舗を活用した産直「山王食鮮市」の実験店舗開設、商店街イベントでの中山間地域の農林産物販売 ■実施時期:12～3月中旬 (商店街イベントでの販売活動は11月のみ) 場所:山王商店街(鶴岡市山王町地内) ■取組の結果: ・商店街ナイトバザールのイベント参加では市内外の来場者約3千人の中、中山間地域の特産物を販売・PRした。 ・「山王食鮮市」を12月に開設。生鮮品の品薄期でもあったが、300人が来店。(12月末現在) ・中心市街地における販売拠点のみならず地域内の交流拠点としても期待の大きさが確認できた。 ・季節によっては相当の需要が見込まれ、産直カーとの連携や季節毎の製品の安定供給方法の検証が今後必要。 	
取組④	森の産直カー社会実験「在来作物の加工品開発と研究」		
実施主体	山形在来作物研究会、山形大学農学部江頭研究室、山王商店街振興組合、慶應義塾大学先端生命科学研究所		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> ■実施内容: ①在来作物など地域食材の利用拡大のための研究 ②山ぶどうのメタボローム解析・機能性分析 ③赤カブの葉の乾燥・粉末化実験 ④在来作物を利用した新商品「山王食のブランド」の開発と試食会の実施 ■実施時期:10月～2月 ■実施場所: ①鶴引の農家レストランなど ②慶應義塾大学先端生命科学研究所 ③山形大学農学部、山形県立農業大学校 ④山王商店街(鶴岡市山王町地内) ■取組の目的: 貴重な地域資源である在来作物や古くから伝わる食文化・伝統料理の維持・継承を図るとともに、健康食品としての付加価値化、利用拡大を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■実施内容、時期: ①利用拡大、普及・継承に向け、伝統食・オリジナル料理含むレシピ集を2千部作成。産直カーで配布。[10～1月] ②山ぶどう果汁のメタボローム解析・機能性分析 [11～2月] 12種の比較分析 ③赤カブの葉の乾燥・粉末化実験と利用方法の検討 [11～2月] 1kg製粉 ④新商品「山王食のブランド」開発と試食会の実施 [11～2月] ■実施場所:当初計画と同じ ■取組の結果: ①今回のレシピは夏秋分。地元農家レストランの協力を得て、伝統食など15種を盛り込むことができた。 身近にできる「母の味(伝統料理)」「娘の味(新感覚料理)」の紹介により伝統食文化の普及・継承に寄与。 ②山ぶどう機能性分析では、他のぶどうに比べ、抗酸化作用等に優れることを確認。利用拡大の道が開けた。 山王商店街菓子店で果汁活用のお菓子を試作。 ③赤カブ葉の粉末製造実験では、フリーズドライに代わり、経済性で有利な温風乾燥製造方法の目処がたち、洋菓子、ラーメン、シャーベット等への新たな活用法を見出した。(2月試食会開催予定) ④取組③の成果や、カヤの実を活用したビスケットなど新商品は、試食会の後、地元商店街の料理店・菓子店で新メニューとして並ぶ予定。「温海かぶを使ったケーキ」が完成予定。(3月予定) 	

<p>(6)実施した取組の内容</p>	<p>取組⑤ 都市と地方の交流事業「都市と地方の交流体験プログラムの開発」</p>	<p>実施主体 NPO法人「森と水」、森林文化都市研究会、鶴岡市</p>	<p>当初提案により予定していた計画</p>	<p>実際の取組内容及びその結果</p>
	<p>実施内容、実施結果</p>	<p>■実施内容: 農山漁村地域ならではの自然体験プログラムシーズの調査、プログラムメニュー開発と受入れ体制の構築、首都圏等小中学校へのPR活動の実施 ■実施時期:(調査)9月~12月、(PR活動)1月~2月 ■実施場所:(現地調査)朝日、温海地域等 (PR活動)江戸川区等 ■取組の目的: 子どもから大人までが楽しめる交流体験プログラムを開発し、自然体験学習の拠点として首都圏小中学校などの受入れを進めることで、交流人口の拡大による地域活性化を図る。</p>	<p>■実施内容、時期: 農山漁村地域の自然体験プログラムシーズ調査(7回)とメニュー開発、受入れ体制の構築 [10~12月] 首都圏等小中学校へのPR活動を実施 [1~2月]パンフレット1千部作成 ■実施場所:(現地調査)朝日、温海、櫛引地域など、(PR活動)姉妹都市の江戸川区など ■取組の結果: ・能楽体験など豊かな自然や文化を背景とした体験プログラム40件を開発。 ・江戸川区(友好都市)の小・中学校106校の校長会でプレゼンテーションを実施、先生方による来年度の下見調査の内諾を得るなど、小中学校の受入れ実現に向け大きく前進できた。</p>	
	<p>取組⑥ 都市と地方の交流事業「トレッキングコースの整備充実と森の案内人養成」</p>	<p>実施主体 NPO法人「森と水」、アルゴディア研究会、高館山自然休養林保護管理協議会、鶴岡市</p>	<p>当初提案により予定していた計画</p>	<p>実際の取組内容及びその結果</p>
	<p>実施内容、実施結果</p>	<p>■実施内容: 六十里越街道トレッキングコースの現地調査、高館山コースの充実に向けたアンケート調査、自然体験インストラクター「森の案内人」の養成 ■実施時期:9月~2月 ■実施場所:朝日地域及び高館山自然休養林(大山地区)など ■取組の目的: 森林が保有する貴重な自然資源が体感できるトレッキングコースの充実とインストラクターの養成により、気軽に自然を楽しめる機会を創出する。</p>	<p>■実施内容、時期: 六十里越現地調査(7回)[10~12月]、高館山アンケート(4回 112名)[11月]、「森の案内人」養成講座[1~2月] ■実施場所:当初計画と同じ ■取組の結果: ・危険、迷いそうな箇所など要整備箇所を把握。今後のコース充実のための整備方針を取り纏めた。(3月予定) ・「森の案内人」養成講座を約40人規模で実施し、地元人材の発掘・育成に繋がった。(1~2月 2回予定)</p>	
	<p>取組⑦ 都市と地方の交流事業「美しい都市スタイル実験調査」</p>	<p>実施主体 早稲田大学都市・地域研究所、東北公益文科大学公益総合研究所</p>	<p>当初提案により予定していた計画</p>	<p>実際の取組内容及びその結果</p>
	<p>実施内容、実施結果</p>	<p>■実施内容: ①農家住宅空家調査データベースの作成 ②地域の魅力を語ったプロモーションムービーを配信するHP立上げ ③都市間交流アクションプログラムの開発、中山間地域と市街地の組合せ交流メニューを宣伝する広報マップ作成 ■実施時期:9月~2月 ■実施場所:朝日地域、温海地区及び鶴岡地区の中心市街地 ■取組の目的: 農家農村空家利用と中山間地域や市街地の歴史・文化的資源など、地域の魅力をPRする基盤を構築し、短中期滞在型の都市と農村交流を促進。</p>	<p>■実施内容、時期: ①農家住宅空家調査データベースを作成 調査は朝日、温海地区の2地区310棟 (2月完成予定) ②朝日地区まちづくり応援HP(仮称)の立ち上げ、コマーシャルフィルム放映 (3月完成予定) ③組合せ交流の付加価値を高める中心市街地の歴史的建造物と街並みが調和する「七日町物語MAP(仮称)」を製作。(3月予定) ■実施場所:当初計画と同じ ■取組の結果: ①空家調査結果から、修繕の要否、短中期滞在への利用可能率(3~5%)を把握できた。 次年度の都市と地方の交流プログラムの実践・展開のための基礎データとして活用。 ②③各種成果をホームページ、コマーシャルフィルムに反映。(3月予定)</p>	
<p>(7)実施体制</p>	<p>平成20年度の取組実施における体制・役割分担</p> <p>協議会を組織する14の構成団体が、中山間地域と中心市街地での各々の専門分野において、役割分担し、各取組み間の連携を図りながら事業を実施。 鶴岡市は関係部署連携の下、協議会の代表として、各構成団体の連携・調整を図りつつ、事業全体の融合・取り纏めを行う。</p>		<p>取組の実施を踏まえた反省点</p>	
	<p>取組①②「森の産直カー実験」 ■あさひ村直売施設管理運営組合、櫛クアボリスあつみしやりん、ひめつちや市 ■産直カーによる農産物の集荷と市街地での販売、加工品開発(在来作物の提供)</p> <p>森の産直カー社会実験 (地域内交流)</p>		<p>■取組①②:あつみ産直カーの実施主体2社は、実施に先立ち、新たに「あつみ旬菜市推進協議会」を組織し、体制をより充実させた。 また、温海地域は集荷集落の点在により、予想以上の集荷時間が見込まれたことから、地元農家の協力を得つつ、集荷場所を途中に設け、軽トラック4台による集荷集結システムで対応した。 販売先の確保では、市街地町内会や商店街、企業などの理解と協力の下、地域が一体となった取組みができた。</p>	
	<p>取組③「商店街産直ネットワーク実験」 ■山王商店街振興組合 ■市街地における産直カー一店舗活用実験</p> <p>取組④「在来作物の加工品開発と研究」 ■山形在来作物研究会、山形大学、慶應義塾大学など ■在来作物の分析、加工技術研究、加工品開発</p>		<p>■取組③④:新商品開発では、山王商店街の洋菓子店等5店舗が開発グループを結成し、体制を充実させた。 実験店舗の品揃えでは、産直カーのみでは量的限界が発生。他の地元生産者の協力により対応できたが、品薄時の追走・補充体制、販売ノウハウの充実に向け、関係者のネットワークの更なる拡大を検討していく。</p>	
	<p>取組⑤「交流体験プログラム開発」 ■NPO法人「森と水」、森林文化都市研究会など ■子ども自然交流プログラムの調査・開発、PR</p> <p>取組⑥「環境整備と森の案内人育成」 ■NPO法人「森と水」、アルゴディア研究会他 ■トレッキングコース充実と人材育成</p>		<p>■取組⑤:NPO「森と水」が中心となった体験プログラムの調査・開発の進捗に応じ、体験メニューデータの一元管理と交流体験申込窓口の一本化を目指すため、新たに鶴岡市グリーンツーリズム協議会とも連携した。 ■取組⑦:大学研究所の高度かつ専門的な指導により、効率的にプログラムを開発。 今後は、各成果を有機的に結び付け、実践に向けた受入れ体制の整備、連携が必要と考える。</p>	
	<p>取組⑦「美しい都市スタイル実験調査」 ■早稲田大学都市・地域研究所、東北公益文科大学公益総合研究所 ■農家空屋調査、歴史と文化を体感する中山間地域・市街地体験交流プログラムの開発など つるおが森のまちづくり推進協議会(伊達、鶴岡市)</p>		<p>■鶴岡市関係各課は、取組み途中の諸課題に対し討議・調整を繰り返しつつ、円滑な進捗に努め、各実施主体毎に当初計画どおりの取組みが実施できた。また、広報活動を積極的に行い、本事業の浸透を図った。</p>	

	○成果1→	地域内の交流拡大と地域内経済の新しい循環システムの確立 [取組①②③④:森の産直カー社会実験]	
		H19 産直組合員数:136名、産直カー売上げ:0円	
		H20(当初予定していた目標) 産直組合員数:240名、産直カー売上げ:1000万円(通年ベースで2,500万円)	
	(8)取組により得られた成果	H20(実際に得られた成果) <ul style="list-style-type: none"> ■産直カー会員数が190名(最終見込み)に増加、これまで出荷経験のなかった高齢者農家など50名に新たな販売の道が開かれた。 ■売上げは、12月末現在で666万円(日平均7.5万円)、3月中旬には目標1000万円に達する見込み。(取組み時期の制約等から会員数の伸びは不足したが、今後、春夏の増が見込まれる。) ■取組みを契機に、新たに加工・生産拡大への意欲や生き甲斐が創出、中山間地域の雇用の拡大にも寄与。(延べ130回の運行で、260人が従事:3月末見込み) また、漁村集落では海産物を扱う海の産直カー試行への機運が高まり、推進協議会の準備に入ったほか、他の農業団体でも産直カー導入の検討が見られるなど、波及効果が広がっている。 11月から始めた市内保育園への給食食材提供(600人)の追加取組みでは、子供と生産者の新たな交流づくりのきっかけとなった。 ■赤カブの葉の温風乾燥製造によるパウダー化、山ぶどう果汁の機能性成分等の判明(抗酸化作用に優れる)に伴い、新たな活用法、利用拡大へのステップとなった。 	
	○成果2→	地域外との交流拡大と鶴岡らしい新領域プログラムの開発 [取組⑤⑥⑦:都市と地方の交流事業]	
		H19 交流人口:6244百人	
		H20(当初予定していた目標) 交流人口:6406百人(2.6%増)	
	(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	H20(実際に得られた成果) <ul style="list-style-type: none"> ■H20年度交流人口は、推計で6160百人(前年比99%)でほぼ横ばいの見通し。(景気後退の中ではあるが、減少率は歩留まりした。減少率:H18→H19は△5.9%、H19→H20は△1.3%) ■農山漁村地域ならではの自然体験プログラム40件を開発。トレッキングコース充実のための整備方針の取り纏めと、森の案内人養成候補者40名を集めた。 ■短中期滞在型交流に向けた農家住宅空家情報をデータベース化し、全国への発信ツールを整備した。 ■東京都江戸川区の小・中学校106校の校長会でプレゼンテーションを実施(2月予定)、来年度には先生方による下見調査の内諾を得るなど、受入れ実現に向け大きく前進できた。 	
	当初提案に予定していた平成21年度以降の展開		
	<ul style="list-style-type: none"> ■地域内の交流拡大と地域内経済の新しい循環システムの拡大 「取組①②③④:森の産直カー実験事業」(平成21年度継続取組) ・取組①②:新たな加工品も活用した中心商店街、大都市圏での販売活動の展開、採算の取れる産直カーの仕組みづくりの完成と、往来機能を活用した買物等便利屋機能への応用展開のための社会実験。 ・取組③:産直カーと商店街が連携したブランド加工品の地域内流通と通信販売事業の社会実験。 ・取組④:在来作物の販売拡大とブランド化の推進。 (平成22年度以降) ・産直カーによる中心市街地販売の本格的展開(H22～) ・便利屋機能をもったコミュニティーカーへの応用展開(H22～) ・中心市街地の産直施設常設と通信販売事業の展開(H22～23) 	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度 【取組①②】森の産直カー実験事業「あさひ発」「あつみ発」(H21年度) <実施主体:変更なし> ■産直カー自主自立運行の確立に向けた継続検証。往来機能を活用した中山間地域の生活支援機能の検討。■仙台や首都圏のふるさと会住民と「森の産直カー」の交流促進。■保育園児や町内会など顔の見える交流を深めるため、朝日・温海地域をフィールドにした農林産物収穫体験やイベント等の実施。[活用を希望する制度:地方の元気再生事業(想定金額1140万円)] 【取組③】森の産直カー実験事業「山王商店街産直ネットワーク社会実験」(H21年度) <実施主体:変更なし> ■常設産直施設の納入システムの改善と山王食のブランド品を活用したイベント等交流活動の実施、通信販売事業の展開。 [活用を希望する制度:地方の元気再生事業(想定金額292万円)](山王食鮮市の整備は経済産業省の補助金活用予定(H23～)) 【取組④】森の産直カー実験事業「在来作物の販売拡大とブランド化の推進」(H21年度) <実施主体:変更なし> ■在来野菜の販売拡大のため春夏の在来野菜レシビ集を作成、中山間地域と商店街が連携した新たなブランド開発及びそのシステム作りを取組む。特産化を目指す山ぶどうワインの機能性分析を行い、果汁・ワイン以外の利用拡大を進める。 [活用を希望する制度:地方の元気再生事業(想定金額350万円)]	
	(10)平成21年度以降の活動の見込み	<ul style="list-style-type: none"> ■地域外との交流拡大と鶴岡らしい新領域プログラムの開発 「取組⑤⑥⑦:都市と地方の交流事業」(平成21年度継続取組) ・取組⑤:首都圏等の小中学生の交流体験プログラムの受入れ実施 ・取組⑥:森林人材養成講座への派遣と養成、六十里越街道や高館山トレッキングコースの整備。 ・取組⑦:「都市・農村交流アクションプログラム」と「短中期滞在農村住宅バンク」を組合せた社会実験の実施。 (平成21年度継続取組) ・短中期滞在農村住宅への都市住民の二地域居住の促進。 	【取組⑤⑥】都市と地方の交流事業(H21年度) <実施主体:鶴岡グリーンツーリズム協議会を追加> ■取組⑤:首都圏等小中学生の受入れのためのモニタリング調査と受入体制の確立。プログラム・トレッキングコース充実に向けた人材育成の継続と、来訪者が鶴岡の食を気軽に体験できる食や食の歴史をテーマにした店舗連携パンフ及びHP製作。 ■取組⑥:トレッキングコース整備内容の充実。[活用を希望する制度:地方の元気再生事業(想定金額150万円)] 【取組⑦】都市と地方の交流事業(H21年度) <実施主体:変更なし> ■空家バンクデータの活用、中心市街地観光と農業体験を組合せた短中期滞在の都市間交流社会実験を実施。 まちづくり応援HP等による全国各地の鶴岡ファンとの交流促進支援。 [活用を希望する制度:取組⑦について地方の元気再生事業(想定金額400万円)]
		当初提案になし	【取組⑧】海の産直カー実験事業(H21年度) <実施主体:海の産直カー由良・鼠ヶ間地区推進協議会(仮称)> ■漁村地域(鼠ヶ間、由良地域)でも「海の産直カー」運行実験への機運が高まったことから、漁村・中山間地域・市街地の交流を通じ、地元水産物の販路開拓と消費拡大、水産市場の活性化、所得機会の創出、加工品開発による学校給食の利用率向上を図る。 [活用を希望する制度:地方の元気再生事業(想定金額1380万円)]

◆主な実施取組の内容◆

【森の産直カー運行社会実験】

中山間地域の農林産物の集荷から販売までを担当する「森の産直カー」の運行実験により、「産直施設までの距離が遠い」「生産量が少なく出荷できない」などの理由から、これまで出荷を諦めていた中山間地域の高齢者農家などに新しい出荷と所得機会の道を切り開くことになった。また、町内会や商店街、企業などの協力により20箇所以上で販売活動を行ったことで、買い物に困っていた高齢者など多くの市民に喜ばれ、中山間地域と中心市街地との地域内交流と地域内経済の循環システムが確立されてきている。

○森の産直カー運行実験の状況



「森の産直カー」市街地での販売状況



「森の産直カー」山間部の集荷風景

【在来作物等の利用拡大の取組、都市交流機会の促進】

未利用となっていた温海カブの葉の新たな活用や山間部の珍しい農林産物を使った新たな商品開発、家庭での料理機会を支援するレシピ集の作成・配付などにより、地域内の「農業」や「食」への理解を高め、地域内連携が生まれてきた。

また、本地域で育まれてきた自然体験や伝統芸能に関するプログラム発掘による体験学習等の多様なメニューや受入体制の構築、空き家施設等の利用可能調査を通じた短中期型滞在など、子どもから大人までもが楽しめる多様な都市交流の促進が期待できるようになった。

○在来作物の利用促進や交流促進の取組○



産直実験店舗「山王食鮮市」の運営



秋の在来作物レシピ集



珍しい食材を使った新しい商品開発



新しいプログラムの発掘「山戸能」

◆取組実施による成果・今後の展開◆

- ・「森の産直カー」自立への手ごたえを得ることができたため、今後は運営体制の改善による自主的運行の確立、顔の見える新たな地域内交流(保育園児、町内会住民等との相互交流)を拡大させ、自主的で持続性のある地域内交流と地域内経済を実現していく。海岸地域で実施への機運が高まっている「海の産直カー」社会実験に取組み、せりの活性化等による漁村地域の所得機会の向上と中心市街地等との新たな交流による地域活性化、地産地消を促進する。
- ・地域の豊かで貴重な資源である「食」の魅力を地域全体で大切に育てていくために、在来作物の新商品開発や家庭料理への利用が持続する仕組みを作るとともに、「豊かな自然資源・地域文化」などの魅力も加えた多様な地域情報を総合的に発信し、「食」や「自然学習体験」等々、子どもから大人まで多くの人が多様に交流することができる基盤を構築する。